

令和4年度廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書
 (廃棄物循環利用量実態調査編) 正誤表

39 ページ 表 4-1-1 ごみ排出量内訳

<誤>

(単位 : 千トン)

区 分	収集・搬入・ 処理量	生活系ごみ	事業系ごみ
ごみ排出量	44,874	31,757	13,117
収集ごみ+直接搬入ごみ (小計)	42,291	29,174	13,117
収集ごみ (小計)	38,546	27,854	10,691
混合ごみ	2,913	1,795	1,118
可燃ごみ	29,030	20,041	8,988
不燃ごみ	1,309	1,136	173
資源ごみ	4,701	4,345	356
その他	64	58	6
粗大ごみ	529	479	50
直接搬入ごみ (小計)	3,746	1,319	2,426
混合ごみ	307	28	279
可燃ごみ	2,170	584	1,586
不燃ごみ	444	226	218
資源ごみ	285	146	139
その他	47	25	22
粗大ごみ	494	311	182
集団回収量	2,583	2,583	
自家処理量	8	8	
合 計	44,883	31,765	13,117

<正>

(単位 : 千トン)

区 分	収集・搬入・ 処理量	生活系ごみ	事業系ごみ
ごみ排出量	41,669	30,016	11,653
収集ごみ+直接搬入ごみ (小計)	40,026	28,373	11,653
収集ごみ (小計)	36,160	26,763	9,396
混合ごみ	2,501	1,662	840
可燃ごみ	27,404	19,330	8,073
不燃ごみ	1,138	1,019	120
資源ごみ	4,435	4,140	295
その他	60	45	15
粗大ごみ	622	568	54
直接搬入ごみ (小計)	3,866	1,610	2,257
混合ごみ	232	31	201
可燃ごみ	2,119	684	1,435
不燃ごみ	377	236	141
資源ごみ	464	193	271
その他	46	22	24
粗大ごみ	628	444	184
集団回収量	1,643	1,643	
自家処理量	8	8	
合 計	41,678	30,025	11,653

40 ページ 表 4-1-2 ごみの処理・再生・処分内訳

<誤>

(単位 : 千トン)

		処理量	処理量内訳			
			再生利用量	最終処分量	残さ焼却量	
計画処理量	施設処理量・処分量	粗大ごみ処理施設	1,877	452	297	1,067
		資源化等を行う施設	3,066	2,417	272	271
		ごみ堆肥化施設	166	129	0	6
		ごみ飼料化施設	7	3	0	0
		メタン化施設	47	19	5	1
		ごみ燃料化施設	694	392	5	41
		その他施設	91	-	52	31
		(小計)	5,948	3,412	632	1,417
		焼却施設 (うち直接焼却)	35,147	1,153	3,335	-
			33,730	-	-	-
		直接埋立	574	-	574	-
		直接資源化	2,120	2,120	-	-
(小計)	42,372	6,686	4,542	1,417		
集団回収		2,583	2,583	-	-	
自家処理		8	-	-	-	
合計		44,963	9,269	4,542	1,417	

<正>

(単位 : 千トン)

		処理量	処理量内訳			
			再生利用量	最終処分量	残さ焼却量	
計画処理量	施設処理量・処分量	粗大ごみ処理施設	1,974	473	250	1,151
		資源化等を行う施設	3,071	2,413	169	356
		ごみ堆肥化施設	181	138	2	2
		ごみ飼料化施設	9	6	0	0
		メタン化施設	95	41	1	22
		ごみ燃料化施設	535	317	3	42
		その他施設	57	-	27	21
		(小計)	5,923	3,387	452	1,595
		焼却施設 (うち直接焼却)	33,466	1,373	2,818	-
			31,872	-	-	-
		直接埋立	367	-	367	-
		直接資源化	1,923	1,923	-	-
(小計)	40,085	6,683	3,638	1,595		
集団回収		1,643	1,643	-	-	
自家処理		8	-	-	-	
合計		41,736	8,326	3,638	1,595	

40 ページ 4)資源化内訳

<誤>

集団回収、直接資源化及び中間処理後の再生利用等の資源化量合計は 8,326 千トンであり、ごみ排出総量（収集量、直接搬入量、自家処理量、集団回収量の合計量 44,883 千トン）に対する割合は 18.6%である。また、その内訳は以下のとおりである（表 4-1-3）。

ごみ排出総量に対する割合は、集団回収量は 3.7%、市町村が収集した資源ごみ、直接搬入ごみのうち、資源化施設等を経ず直接資源化された量は 4.3%、資源化施設、焼却施設で処理の後、資源化された量は 10.6%である。

<正>

集団回収、直接資源化及び中間処理後の再生利用等の資源化量合計は 8,326 千トンであり、ごみ排出総量（収集量、直接搬入量、自家処理量、集団回収量の合計量 41,678 千トン）に対する割合は 20.0%である。また、その内訳は以下のとおりである（表 4-1-3）。

ごみ排出総量に対する割合は、集団回収量は 3.9%、市町村が収集した資源ごみ、直接搬入ごみのうち、資源化施設等を経ず直接資源化された量は 4.6%、資源化施設、焼却施設で処理の後、資源化された量は 11.4%である。

48 ページ (1)ごみ堆肥化施設

<誤>

ごみ堆肥化施設には 166 千トンが搬入され、109 千トンの堆肥とその他として 29 千トンが再資源化された。処理による発生した残さのうち 6 千トンが焼却施設で焼却、0.2 千トンが埋立処分されている。また、堆肥製造に伴い、22 千トンが減量化（ガス化・脱水・乾燥）されたことになる（表 4-1-11）。

表 4-1-11 ごみ堆肥化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化											残さ処理		減量化	
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却		残さ埋立
166 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	109 (65.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (17.4%)	6 (3.4%)	0.2 (0.1%)	22 (13.2%)

<正>

ごみ堆肥化施設には 181 千トンが搬入され、109 千トンの堆肥とその他として 29 千トンが再資源化された。処理による発生した残さのうち 2 千トンが焼却施設で焼却、2.2 千トンが埋立処分されている。また、堆肥製造に伴い、39 千トンが減量化（ガス化・脱水・乾燥）されたことになる（表 4-1-11）。

表 4-1-11 ごみ堆肥化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化											残さ処理		減量化	
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却		残さ埋立
181 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	109 (60.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (16.0%)	2 (1.2%)	2.2 (1.2%)	39 (21.4%)

48 ページ (2)ごみ飼料化施設

<誤>

ごみ飼料化施設には 7 千トンが搬入され、5 千トンの飼料が製造・再資源化された。処理により発生した残さは無い。また、飼料製造に伴い、1 千トンが減量化されたことになる（表 4-1-12）。

表 4-1-12 ごみ飼料化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
7 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (81.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (13.4%)	

<正>

ごみ飼料化施設には 9 千トンが搬入され、5 千トンの飼料が製造・再資源化された。処理により発生した残さは無い。また、飼料製造に伴い、4 千トンが減量化されたことになる（表 4-1-12）。

表 4-1-12 ごみ飼料化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
9 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (56.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (40.1%)	

48 ページ (3)メタン化施設

<誤>

メタン化施設には 47 千トンが搬入され、13 千トンのメタンが燃料ガスとして製造・再資源化された。処理により発生した残さのうち 1 千トンが焼却施設で焼却、5 千トンが埋立処分されている。また、メタン製造に伴い、1 千トンが減量化されたことになる（表 4-1-13）。

表 4-1-13 メタン化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化												残さ処理		減量化
	紙類	金属類	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立	
47 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (27.1%)	0 (0.0%)	26 (54.0%)	1 (1.1%)	5 (11.4%)	1 (1.6%)

<正>

メタン化施設には 95 千トンが搬入され、13 千トンのメタンが燃料ガスとして製造・再資源化された。処理により発生した残さのうち 22 千トンが焼却施設で焼却、1 千トンが埋立処分されている。また、メタン製造に伴い、32 千トンが減量化されたことになる（表 4-1-13）。

表 4-1-13 メタン化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化												残さ処理		減量化
	紙類	金属類	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立	
95 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (13.5%)	0 (0.0%)	26 (26.9%)	22 (22.7%)	1 (1.3%)	32 (33.2%)

48 ページ (4)ごみ燃料 (RDF) 化施設

<誤>

ごみ燃料化施設には 694 千トンが搬入され、269 千トンの燃料 (RDF) が製造 (生産)・再資源化 (燃料としての利用) された。また、製造過程で 3 千トンのプラスチック等が回収・再資源化された。処理により発生した残さのうち 41 千トンが焼却施設で焼却、5 千トンが埋立処分されている。また、燃料製造に伴い、331 千トンが減量化 (ガス化・脱水・乾燥) されたことになる (表 4-1-14)。

表 4-1-14 ごみ燃料化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
694 (100.0%)	2 (0.3%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	37 (5.3%)	269 (38.8%)	5 (0.7%)	41 (5.9%)	5 (0.8%)	331 (47.7%)	

<正>

ごみ燃料化施設には 535 千トンが搬入され、269 千トンの燃料 (RDF) が製造 (生産)・再資源化 (燃料としての利用) された。また、製造過程で 3 千トンのプラスチック等が回収・再資源化された。処理により発生した残さのうち 42 千トンが焼却施設で焼却、3 千トンが埋立処分されている。また、燃料製造に伴い、174 千トンが減量化 (ガス化・脱水・乾燥) されたことになる (表 4-1-14)。

表 4-1-14 ごみ燃料化施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
535 (100.0%)	2 (0.4%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	0 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	37 (6.9%)	269 (50.3%)	5 (0.9%)	42 (7.9%)	3 (0.5%)	174 (32.5%)	

49 ページ (5)粗大ごみ処理施設、資源化施設、その他施設

<誤>

粗大ごみ処理施設、資源化施設、その他施設には 5,034 千トンが搬入され、金属が 687 千トン、ガラスが 525 千トン、紙が 461 千トン、プラスチック類が 656 千トン、ペットボトルが 247 千トン等、再資源化された。その他は家具、自転車等の再生製品等と考えられる。

また、再資源化処理により発生した残さのうち 1,370 千トンが焼却施設で焼却、621 千トンが埋立処分されている。また、再資源化処理に伴い、158 千トンが減量化（脱水・乾燥）されたことになる（表 4-1-15）。

表 4-1-15 粗大ごみ処理施設、資源化施設、その他施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
5,034 (100.0%)	461 (9.2%)	687 (13.7%)	525 (10.4%)	247 (4.9%)	656 (13.0%)	40 (0.8%)	16 (0.3%)	0 (0.0%)	6 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	247 (4.9%)	1,370 (27.2%)	621 (12.3%)	158 (3.1%)	

<正>

粗大ごみ処理施設、資源化施設、その他施設には 5,102 千トンが搬入され、金属が 687 千トン、ガラスが 525 千トン、紙が 461 千トン、プラスチック類が 656 千トン、ペットボトルが 247 千トン等、再資源化された。その他は家具、自転車等の再生製品等と考えられる。

また、再資源化処理により発生した残さのうち 1,529 千トンが焼却施設で焼却、446 千トンが埋立処分されている。また、再資源化処理に伴い、241 千トンが減量化（脱水・乾燥）されたことになる（表 4-1-15）。

表 4-1-15 粗大ごみ処理施設、資源化施設、その他施設の再資源化、減量化等

搬入量	再資源化													残さ処理		減量化
	紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	肥料	飼料	焼却灰・飛灰	燃料ガス	固形化燃料	その他	残さ焼却	残さ埋立		
5,102 (100.0%)	461 (9.0%)	687 (13.5%)	525 (10.3%)	247 (4.8%)	656 (12.9%)	40 (0.8%)	16 (0.3%)	0 (0.0%)	6 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	247 (4.8%)	1,529 (30.0%)	446 (8.7%)	241 (4.7%)	

49 ページ (6)焼却施設

<誤>

焼却施設には 35,147 千トンが搬入され、30,438 千トンが減量化（ガス化・脱水・乾燥）され、溶融スラグとして 1,033 千トン、金属が 81 千トン（焼却後資源化を含む）、プラスチックが 2 千トン再資源化された。その他は飛灰等のセメント原料としての利用等と考えられる。また、処理により発生した残さ 3,335 千トンが埋立処分された（表 4-1-16）。

表 4-1-16 焼却施設の再資源化、減量化等

(単位:千t)

搬入量	直接 処理残さ		再資源化 (焼却前資源化:金属は焼却後資源化含む)								残さ処理		減量化
			紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	その他	焼却後資源化	残さ埋立		
										溶融スラグ等			
35,147 (100.0%)	33,730	1,417	4 (0.0%)	81 (0.2%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)	252 (0.7%)	1,033 (2.9%)	3,335 (9.5%)	30,438 (86.6%)	

<正>

焼却施設には 33,466 千トンが搬入され、29,275 千トンが減量化（ガス化・脱水・乾燥）され、溶融スラグとして 1,033 千トン、金属が 81 千トン（焼却後資源化を含む）、プラスチックが 2 千トン再資源化された。その他は飛灰等のセメント原料としての利用等と考えられる。また、処理により発生した残さ 2,818 千トンが埋立処分された（表 4-1-16）。

表 4-1-16 焼却施設の再資源化、減量化等

(単位:千t)

搬入量	直接 処理残さ		再資源化 (焼却前資源化:金属は焼却後資源化含む)								残さ処理		減量化
			紙	金属	ガラス	ペットボトル	プラスチック	繊維	その他	焼却後資源化	残さ埋立		
										溶融スラグ等			
33,466 (100.0%)	31,872	1,595	4 (0.0%)	81 (0.2%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)	252 (0.8%)	1,033 (3.1%)	2,818 (8.4%)	29,275 (87.5%)	